

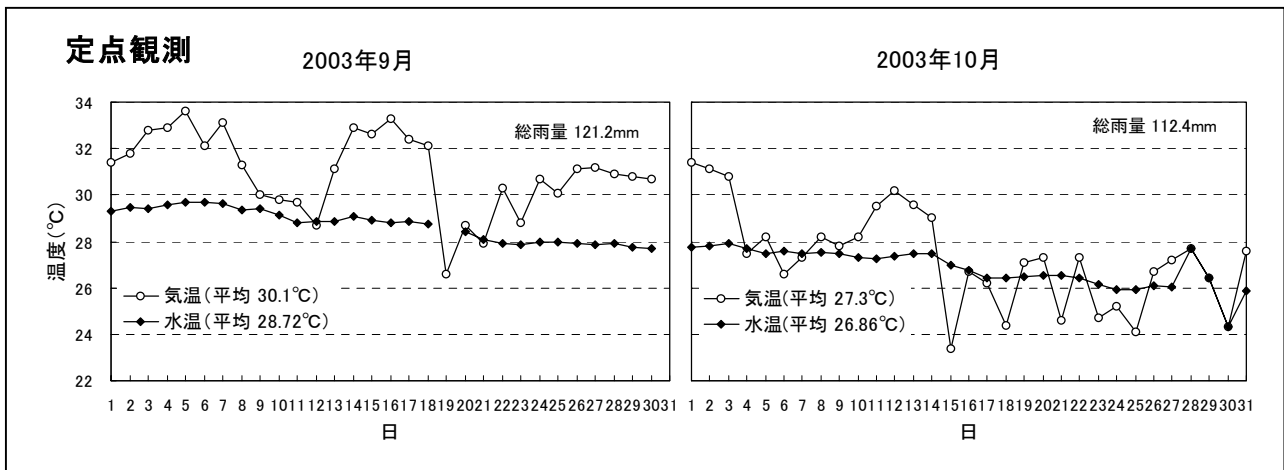
## ●砂もぐりの達人？

### ーブンブクの仲間ー

今年もサンゴの産卵シーズンが終わりました。研究所では、満月前後の夜、毎日海に潜って、どのサンゴがいつ卵を産むのか調べていますが、今年は台風が来たり、予想と違う日に産卵したり、なかなか大変でした。一生懸命に泳ぎ回っても、まったく産卵しない日ももちろんあります。けれども、時折めずらしい生き物たちの姿が見えて、それはそれで楽しいものです。今回は、そんな夜の海で見かけた生き物の一つを紹介しましょう。

いつものようにサンゴの産卵観察のために夜の海中を泳いでいると、岩かげの砂の上に、毛むくじらのかたまりが転がっていました。遠目にはゴミかと思えたのですが、あまりにも形が整っているので、そばによって見てみると、ブンブクの種類でした。「ブンブク」と聞いて

も何のことかわからない人も多いかもしれませんが、れっきとした生き物の名前です。見た目のイメージがずいぶん違いますが、ウニの仲間、昔話のタヌキの化けた分福茶釜ぶんぶくちやがまに形が似ていることからこの名前がつきました。ウニの仲間と言っても、ふつうのウニとは体のつくりもくらしもずいぶん違っています。たとえば、阿嘉島のまわりにたくさんいるナガウニの口は体の真下にあり、肛門は背中のでっぺんにありますが、ブンブクは、口は体の下にありますが、肛門が体の横にあります。つまり、ナガウニはどっちが前でどっちが後ろかよくわかりませんが、ブンブクの場合は、肛門の位置で、前と後ろがはっきりしているのです。ナガウニは、岩の上などで前後左右に自由に動き回りながら生きているので、体にはっきりとした前後の区別がないほうが都合がよいのです。では、ブンブクの場合はどうでしょう。ブンブクの仲間は砂や泥にもぐり、その中を移動しながらくらししています。砂の中を進むためには、進む方向の砂をくずしては、それを体の後ろに運ばなければなりません。それでブンブクは、上手に砂の中を進むために、体の前には砂をくずすのに適した形と動きのトゲを、そして体の下側には砂を後ろに運ぶのに適したトゲをもっています。



つまり、体の前後をはっきりさせて、それぞれの場所にはたらきの違うトゲをもち、砂の中でうまく動くことができるようになっているのです。

では、ブンブクは、どのくらいの速さで砂にもぐることができるのでしょうか。ためしに砂の上に、体長 3.5cm くらいのブンブクをのせてみました。結果から言うと、ブンブクの体がすっかり砂の中に入るのには 5 分くらいかかりました。思

ったよりのんびりしていたのですが、あの丸っこい体ですから、これでも大したもの。もぐった後、砂の中を横に移動するのでしょうか、残念ながらそれは見ることはできませんでした。それで、もう一度ブンブクの観察をしたいと思っ

ているのですが、ほとんどの時間を砂の中ですごす生き物なので、海の中ではなかなか見つかりません。生きたブンブクを見たのは、この 2 年で 2 度しかなく、どちらも夜でした。また、数年前に阿嘉島のまわりでウリザネブンブクが見つ

かっていますが、これも夜間です（このウリザネブンブクは研究所の機関誌「みどりいし」6 号で紹介されていますが、生きている状態でこの種のブンブクが公開されたのは、それが世界で 2 番目のこと

でした）。きっと、ブンブクが表に出てくるのは、夜の方が多いのでしょうか。また来年のサンゴの産卵調査の時、ブンブクに出会えるのではないかと楽しみにして

います。

### ● 阿嘉島の海より

10 月 29 日から臨海研究所のスタッフに竹内直子さんという女性が加わりました。大学では魚の研究をしていた人なので、魚好きの人は話を聞いてみて下さい。

大分寒くなってきました。風邪などひかないように気をつけましょう。